

農務課

担当課から「上名寄集住化等計画は、全体プランが出来上がっている。現在、事業費積算をしている。農業研修施設との一体的整備を進めるためにも新型再生交付金事業として申請していくことを考えている。」などの説明がありました。

環境未来都市推進課

担当課から「サンルダム周辺整備計画に関する概算事業費を含めた実行計画は本年度策定する。以後、ローリングを行いながら整備を進めていく。本年度は、象の鼻展望台の広場、駐車を整備する。」産業活性化支援機構については、「情報発信の一元化、移住・定住の促進、雇用の創出などを図る機能を有するもので、任意団体である。組織は町内各団体、町を中心に構成する。マネージャー、地域おこし協力隊員、事務員含め4名の常勤スタッフでスタートする。」などの説明がありました。

建設水道課

担当課から「まちおこしセンターは10月完成、12月オーブン予定で、管理は直営で個人経営以外の団体への管理委託を予定している。クラスター推進部の入居は将来的には可能性がある。運営の所管部署は今後打合せしていく。」などの説明がありました。

委員から「まちおこしセンター入居団体からなる運営委員会をつくり管理する方法もある。備品購入は所管課が主体となって行うべき。町民の関心が高いので十分連携を取りながら取り組んでほしい。」などの意見がありました。

理事者総括質疑

予算審査の最終日に、理事者に対しての総括質疑として3項目の見解を求めました。

①施設の指定管理について

Q 施設の指定管理等について、民間ノウハウの活用、経費節減等指定管理者制度の目的を十分發揮していな

いのではないか。

A 新年度以降、チェックできる体制づくりを進める。現地におもむきチェックしていく。PDCA（計画、実行、評価、改善）をしつかり確認できるように進めていきたい。利用者満足度調査も研究してみたい。

②予算編成方針に基づく予算化について

Q 予算審査を通して、編成方針にあるスクラップ&ビルドの中で、見直し、廃止が全くされていないのではないか。

A 廃止、削減を念頭に予算編成を行ったが、大幅な削減は支障をきたす。時代に合わなくなったものはしっかり見直ししなければならぬ。公共事業の縮減も視野に入って3,000人規模のまちで建設工事が大きいものがある。事業者に理解を得て見直しを図っていく。1年間の工事発注計画を事業者に発表して、競争

してもらおう。説明責任を果たしていきたい。物品購入を研究していきたい。予算を拡充しないようにしていきたい。

委員から「理事者が方針を示し知恵を絞る必要がある。危機意識をもってないのではないか。財政が厳しいことを職員に理解してもらおう必要がある。ゼロ予算（予算化しない取組）を取り入れてはどうか。」との意見がありました。

③職員定数について

Q 福祉施設等の人員不足によってサービスの低下招いている。職員の定数配分の見直しを考えていないか。

A 公募しても応募がない状況で29年度に向けて職員募集をしていかなければならない。担い手対策を検討していきたい。民間事業者の方へは、制度的に何ができるか制度設計をしていきたい。担い手がない中で条件整備の限界がある。民間事業者に配慮しなければならぬ。

らない。今後の引き続き議論していきたい。

委員から「29年度からと言わず、速やかに職員を補充しなければならぬ。移住を受け入れる条件整備は大事である。」との意見がありました。

審査を行った結果、総務産業常任委員会として次の意見を付すものです。

■ 昨年の第4回定例会でも意見を付したが、本町の条例体系が整理されていない。今後、各条例、要領、要綱、取扱い等を含め、体系化すべきである。

以上、意見を付して、当委員会として、訂正後の原案を可決すべきものと決しました。

◆特別会計予算・病院事業会計予算

総務産業常任委員会に付託を受けた「特別会計予算及び病院事業会計予算」について、審査を行った結果、当委員会として、原案どおり可決すべきものと決しました。